

Title	『大阪大学日本語日本文化教育センター 授業研究』 第20号刊行にあたって
Author(s)	
Citation	大阪大学日本語日本文化教育センター授業研究. 2022, 20
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/87455
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

『大阪大学日本語日本文化教育センター 授業研究』

第20号刊行にあたって

本センターは1954年に留学生別科として設立され、1991年に留学生日本語教育センターへと改組、そして、予備教育開始50周年と本学の国立大学法人化を契機として、2005年4月に教育と研究のいっそうの充実を目指し、日本語日本文化教育センターへと改称いたしました。その後2007年、合併により大阪大学日本語日本文化教育センターとなって、現在に至っています。2011年には「日本語・日本文化教育研修共同利用拠点」に認定され、名実ともに日本における日本語・日本文化教育の中心的存在として教育・研究活動を進めています。

これまで、研究留学生、学部留学生、教員研修留学生、日本語・日本文化研修留学生などさまざまな留学生を多数受け入れ、その間、留学生の多様なニーズに応えられるよう教育カリキュラムの工夫・改善を重ねてまいりました。よりよいカリキュラムの開発には、日頃の教育の中から生み出されてきた方法論や教材論を共有し、蓄積することが肝要であると考え、本センターでは2003年3月に、専任教員、非常勤講師がともに自由に日頃の成果を発表できる場として本誌の創刊号を刊行いたしました。また、このほかに、教育の質の向上を目指して、さまざまなFD研修活動を行っています。

大学の活動は研究と教育という二つの柱を中心として展開することを基本としますが、多くの大学では、研究成果に関する紀要は発行していても、教室における活動の内容の報告やカリキュラムの改善など、教育の分野について報告する紀要はごく少数です。もちろん実際に授業内で使用する教材を開発して発行することは多々ありますが、本誌はそのようなものともまた性格を異にし、その意味できわめてユニークなものとお負しております。

第20号には、Mプログラムの日本語日本文化専門演習の授業の中で行った地域連携型PBL、Uプログラムの文章表現の授業、Fプログラムの理系数学の授業の実践報告に加えて、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、留学生の渡日状況が多様化する中で、本センターが進めてきたハイブリッド教室の整備に関する報告を掲載することができました。また、本センターが試験的に提供してきた理系大学院生のための「ブレンデッド型日本語学習コース」と、理系研究所の日本人教職員を対象とした「日本語学習支援者養成プログラム」に関する報告も載せることができました。編集委員会では、引き続き、本センターの留学生教育の中から生まれた実践報告や教材研究等に関する積極的な投稿をお待ちしています。

2022年3月

『大阪大学日本語日本文化教育センター 授業研究』
編集委員会